

北九州市立介護実習・普及センター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月7日(月) 14:00~16:40
- 2 場 所 北九州市総合保健福祉センター3階 ADL室
- 3 出席者 (検討会構成員) 佐伯構成員、中島構成員、和田構成員、
神崎構成員
(事務局) 保健福祉局 保健所
保健所担当部長、地域リハビリテーション推進課長、
技術支援担当係長、担当職員1名、ほか関係職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
 - ※ 構成員の役割、選定基準等は、予め各構成員に事前説明済
 - ※ 応募団体の提案資料等についても、各構成員に予め配布済
- 構成員の互選により、座長を選出
- 各応募団体により提案内容に関してプレゼンテーション及びヒアリング

○構成員によるヒアリング

(1) 公益社団法人 福岡県作業療法協会 (以下、「協会」と略す。)

(構成員) 運営に関する人材確保について、協会のネットワークを活かすところがあるが、具体的にどのようにアプローチするのか。

(応募団体) 会員数は現在約3,200名おり、会員の所属は多分野に渡るため、会員から人材を確保していきたい。

(構成員) 人件費の削減が実現できるとあるが、具体的にはどのような取組を行うのか。子育て世代も積極的に雇用とあるが、土日開館する施設となるため子育てサポートについてはどのように考えているか。

(応募団体) 育休中の会員等に募集をかけ、パートタイム等勤務体制を工夫し人材を確保することで人件費の削減が見込めると考えている。協会本部に10数名で構成する企画委員会があり、人員が足りない部分に出務しサポートすることを考えている。

(構成員) その場合、情報共有にタイムラグが生じることが想定できるが、具体的な対応策はあるか。

(応募団体) 他の受託事業では毎月2~3回の企画委員会との会議を実施。同様の対応で、突発的な案件以外は比較的情報共有できると考えている。

(構成員) 理念に「尊い人生を彩るために」との記載があるが、「彩る」とは具体的にはどういう状況を描いているか。

(応募団体) 障害者や子どもから高齢者まで、1人1人の個性やその人の思い、

価値観を見出しながら人生を歩まれていくことを思い描いている。その視点で当事者に寄り添い関わり続けてきたことが職能団体としての強みである。

- (構成員) 地域包括ケアシステムの中においてもネットワークを構築し連携することが重要だが、対応として考えていることがあるか。
- (応募団体) 他の受託事業を介して情報を集約し繋がりを作っていきたい。多様な分野に所属する会員とも連携を取りネットワークを構築したい。
- (構成員) 利用者満足度について、待ち時間の短縮を図るためのサービス向上、手続きの効率化を図るとあるが具体的な方法はあるか。
- (応募団体) 待ち時間の短縮については、DX化も含めネット予約等を導入し効率性を向上することを考えている。

(2) 麻生教育サービス株式会社北九州支店（以下、「麻生教育サービス」と略す。

- (構成員) 介護ロボットの実績はあるが、高齢者の排泄相談についての実績、経験はいかがか。
- (応募団体) 直接的な業務実績はないが、介護技術研修等を受託してきた実績を生かし実務指導ができる講師を活用したい。看護師の採用についてはウォックナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）等の資格を第一優先とし、現実的に難しい場合でも日本コンチネンス協会の研修等を積極的に受講させたい。
- (構成員) 介護ロボット等導入支援・普及促進センターの運営実績があるが、その経験を活かし、介護ロボット普及について、現状の課題や成果を次期指定管理業務に応用していくアイデアはあるか。
- (応募団体) まずは介護従事者向けの講座等に力を入れ事業者側、経営者の理解を十分得ていきたい。そのうえで第一目的は、利用者様に向けてのQOL・ADLの向上、自立支援であるという本筋を活用・普及に向けて伝えていきたい。
- (構成員) 地域包括ケアシステムとの連携、連動についてどう考えるか。市民センターの活動や地域特性は様々で、遠方の方への対応を含めてどのような取組を考えているか。
- (応募団体) 1つ目は5年の指定期間を有効活用して、市内136カ所ある市民センターと連携し、ミニ講座やリクエスト講座等仕掛けていきたい。2つ目は相談の受付等のオンライン化や、ビデオ会議システムの導入である。来館以外で相談を受けられる体制や展示場を見ることができ仕組み等も検討していきたい。オンラインで届かない部分は専門職の訪問を充実させ、そのための職員のスキルアップを図っていきたい。
- (構成員) 積極的に講座等で外に出ていき、訪問支援にも行くとなると、センター内の相談対応職員が足りなくなるのではないか。
- (応募団体) 指定管理上は9名の配置。2人1組で動き、1組は外勤できるようシフトが組めると考えている。支出に一般管理費を積んでおり、その費用で本社から応援する人員体制を取りたいと考えている。

- (構成員) 各種連携先の機関として連携実績やあてはあるのか。
- (応募団体) 現在のロボット事業において既に連携実績のある大学等がある。
まだ連携を取れていない機関も多くあるため、積極的に働きかけ、連携体制を構築していきたい。

○構成員は、提案内容についてのプレゼンテーションとヒアリングを踏まえて、各自得点を記入し発表。その後構成員全員で意見交換

(1) 公益社団法人 福岡県作業療法協会について

- (構成員) 北九州市の住宅改修事業や介護予防事業などへの参入実績があるため期待できる。
- (構成員) 介護ロボット事業の実務経験がない点に不安がある。
- (構成員) 専門職種の職能団体であり、理念そのものや熱意は大変素晴らしく、会員のネットワークを活用した子育て世代の雇用等の方向性は多様性を重視しており評価できる。
- (構成員) 会員からボランティアの協力は得られても実態的な雇用との連携や、常勤職員の体制には曖昧な点が多い。
- (構成員) 予防まで考えた取り組みが多くあり、温かみのある組織であることが伝わったが、一方でDX化や3Dプリンタ等の活用に具体性が見えず技術や内容はこれからだと感じた。
- (構成員) 常勤が少なく、パートやネットワークを活用した人員配置に対し、財政基盤も小さく人員のフォローについて不安がある。
- (構成員) 取り組みの思いや理想は伝わったが、実行するうえでの具体的な記載が少なく、受託後の具体的な活動がイメージできなかった。

(2) 麻生教育サービス株式会社 北九州支店について

- (構成員) 地域連携や産学官連携について、非常に具体的な提案があること、麻生グループの強みを生かしたスタッフ教育、介護ロボット事業の実績がある。一方で講座等の中身についてももう少し具体的な提案が欲しかった。
- (構成員) 介護ロボット事業を受託しており、ノウハウがある点や計画が現実的であった。
- (構成員) kintone やグループウェアなどを使って人的配置を効率的に実施する具体性も見えて連絡の風通しがいい組織だと感じた。
- (構成員) 財政基盤が安定しており、人件費の工夫がうまく事業に計上されていた。活動に対して人員は足りるのかという不安はあるが、本部のフォロー体制があり十分可能ではないかと感じた。
- (構成員) 提案した事業が本当に実行可能なのか不安はあるが、提案や質疑応答の内容が明確であり、多くの事業を請け負っている実績から可能だと判断した。理念や運営、マニュアル等の整備もなされている点が良かった。

○事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

- ・公益社団法人福岡県作業療法協会は、公益性の高い社会貢献の実績があり、非常に高い理念や熱意は大変素晴らしかった。会員数が多く、そのネットワークを最大限に利用したプランが考えられていた点はとても評価できる。一方で、実効性については曖昧な部分が多く、受託後の具体的な活動がイメージできない部分が多かった。人員についてもネットワークの活用が前提であり会員がどれだけ応えてくれるか現実性が曖昧であり、小規模な財政基盤で補えるのか不安が残った。
- ・麻生教育サービス株式会社北九州支店は、非常に現実的な計画やマニュアルが整備されており活動内容が具体的であった。介護ロボットに関する実績があるだけでなく、DX化等を企業として考え実施している点は高く評価した。人員配置に関しても、想定される状況を含め計画されていたこと、本部のフォロー体制が明確であったことで運営に対する安心感がある。一方で、民間企業であるため利益に走らないかといった点や、事業計画を必ず実行できるのかという懸念もある。そのため、以下の付帯意見を付したうえで、数値目標等も含め具体的な提案を行い、各構成員の評価・検討会の評価・合計得点の高くなっている、麻生教育サービス株式会社北九州支店が指定管理者として相応しいと判断する。

<付帯意見>

- ・本市の高齢化等の課題に対して介護予防に関わる視点を重視するとともに、社会を先取りする視点を持って各事業を遂行していただきたい。
- ・多様性を重視して事業を進めていただきたい。

○意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。